

第34回 I T Aアグラ総会報告

太田技術事務所代表 太田 義和

1. 概要

第34回国際トンネル地下空間協会（以下I T Aと称す）は2008年9月19日—25日、インド、アグラ市で開催された。同時に開催された2008年トンネル会議のテーマは“地下施設のより良い環境と安全”であり主催はI T Aおよびインドトンネル協会（T A I）である。約1000人の参加者と54の加盟国の内の38カ国が参加した。名誉会長を含む16名の役員と2名の専門職が選任された。日本からは福本勝司氏（大林組）が2010年まで理事として就任している。

2. 加盟国及び会員

2日カ国に新規入会（カザフスタン、ペルー）が承認され、28の正規会員が加わった。結果として54加盟国と274の正規会員で構成されることとなった。

3. 広報

・トリビューン2008年

「インド特集」として28加盟国からの報告、6月に公表されたI T Aプライムスポンサーからの報告等の内容で、会員への配布と同時にアグラでの会議当日にも配布された。

・ita@news 2007,2008年

ita@newsは6回にわたって発信され、I T Aの最新情報、ワーキンググループ内交流、加盟国情報、将来イベント情報、姉妹協会情報などを提供している。

・トンネル施工と地下空間情報（T U S T）2007年版（22巻）

2007年版は通常の出版に加えて、「非開削トンネル技術号」を出版した。

出版社のE L S E V I E Rとの合意によって、I T A会員はT U S Tの電子データを取得することができるようになった。この電子データの作成費はI T Aが負担している。

・ウェブサイト

I T Aのサイトには1,000ページにわたる拡張子（html）と900のデータ（pdf）ファイルが含まれ10,000ページにわたって印刷可能な状態となっている。現在毎月約28,000件のアクセスがあり、典型的な事例として1ヶ月で530,000件の場合もあった。2008年上期に内容の大幅な改善が行われ9月1日から運用がなされている。

・I T A報告書

各作業部会の報告書は現在「I T Aレポート」として発行されている。

最初の報告書はWG3による、“Guidelines for Good Occupation health & safety practice in tunnel construction：トンネル建設における職場での健康と安全に関する指針“である。

4. オープンセッション（主テーマ：世界における契約実務）

オープンセッションでは下記の内容の報告があった。

A. Assis and J.M. Barros, Brazil on “An independant view of the Pinheiros Station

Accident (Sao Paulo Metro) and lessons learnt for future contractual arrangements”;

Aアシス、JMバロス、“中立的視点からのサンパウロ地下鉄、ピンヘリオウス駅事故について、将来への契約面からの課題”

H. Ehrbar Alp Transit Gothard, Switzerland on “Contract models in Underground Construction – Experiences from an owner point of view”;

Hエハバール、“スイスアルプス横断鉄道、発注者の視点からの地価工事に関する契約事例”

Y. Leblais, ITA Vice President on “Contractual practices worldwide – Engineering sector views”;

Yレブレイス、ITA副会長 “世界的視点からの工学的分野での契約実務”

C. Genschel from Bilfinger+Berger on “Contractual practices worldwide – Contactor’s View and Wishes”;

CゲンシェルとBilfinger+Berger (契約者) “ 契約実務に関する世界規模の契約者の視点と要求”

A. Dix Animateur of ITA WG3 on “Contractual practices worldwide – Tailoring new contractual frameworks for the demands of the local market”

Aディックス、WG3 部会長 “個別建設市場における世界的視野での契約実務に関する新しい枠組みへの取り組み”

H.K. Sharma of Satluj Jal Vidyut Nigam Ltd, India, on “Contractual practices in tunnel and underground works in India”

HKシャルマ Satluj Jal Vidyut Nigam Ltd, “インドにおけるトンネル及び地下工事に関する契約実務”

D.G. Kalkade of Jaiprakash Associates Ltd, India on “Contractual practices in tunnel and underground works in India”

DGカルカデ、Jaiprakash Associates Ltd, “インドにおけるトンネル及び地下工事に関する契約実務”

オープンセッションは異なる視点に立脚した有意義な講演であった。講演者は地下工事契約に伴う視点及び要求事項について明示し大きな成果を残した。

5. トンネル工学教育と訓練

ITA、WG18、部会長D、ペイラ (イタリア) P. グラッソ (イタリア: ITA理事)、ティラマムルシー教授 (インド)

参加者 200 名、その内インド以外から 40 名が参加した。12 カ国から 16 件の講義があり内 9 名は ITA理事、各部会長及びスポンサーからの参加である。上級クラスでは都市域における大深度長大トンネルのための在来工法及び機械化施工法の両工法について理論的観点からの検討と共に技術開発経過、関連事例説明などを含んだ講義を 12 時間にわたって実施した。これ等の講義は参加者の高い関心を呼んだ。

6. 今後の予定

2009 年の ITA総会はハンガリー、ブダペストにおいて 5 月 23 日—28 日に開催予定。2010 年

の I T A 総会はカナダ モントリオールにおいて 5 月 14 日—20 日に開催予定。2011 年の I T A 総会はアグラ大会でフランス、リヨンとの投票の結果、フィンランド、ヘルシンキに決定した。開催予定期間は 5 月 21 日—26 日である。

以上